

高齢ご夫妻が快適に暮らすための改修工事は、80坪の母屋から、築150年超30坪の納屋への住み替えである。居住面積を縮小し温熱環境の効率を高める目的で設けた外縁は、新しい住まいと住み慣れた母屋をつなげる空間であり、生活の継続に一役買っている。

リフォーム前後の写真

before



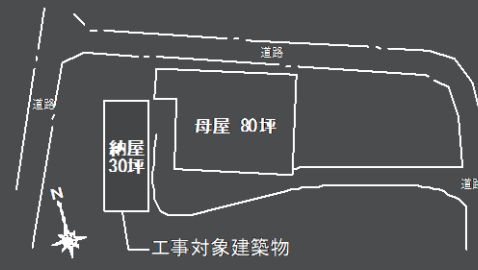
①再生前外観 右手前が母屋、奥が納屋



②再生前内観 かつては馬小屋であった



③真壁構造表しは、修繕計画が立て易い



配置図 80坪母屋の隣に30坪納屋がある



④再生前外観 南西より



⑤解体後 壁の崩落はあるが柱梁は健全

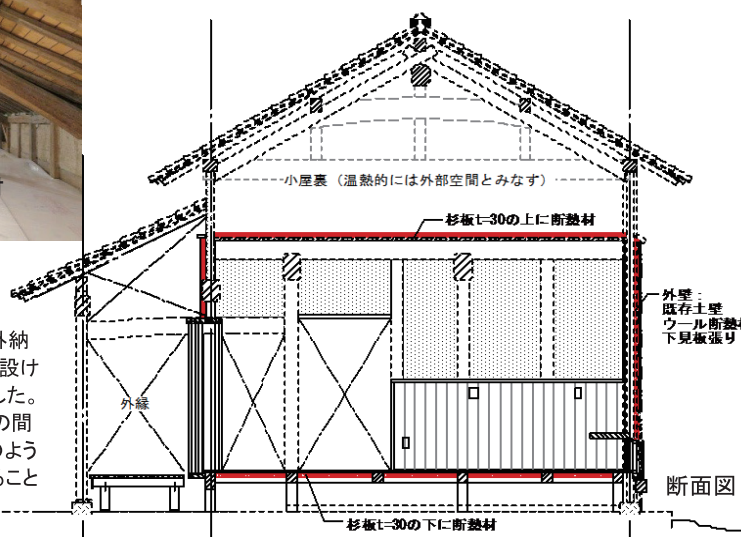
写真A



写真B



納屋1階は30坪の広さであった。本計画では、食堂と繋がる「半屋外納戸」、そして居間と繋がる「外縁」を設けることで、居住空間を25坪へ縮小した。写真Aのように半屋外納戸と食堂の間仕切壁に断熱材



⑥半屋外納戸は温熱の緩衝空間でもある



⑦既存軸組に挿入した造作キッチン



⑧再生後外観 南西より



⑨木製建具を開放し、南東の庭をのぞむ



⑩再生後外観 西面には通風のための地窓が連続する



⑪再生後外観 母屋から納屋へ住み替える

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容

熊本県八代市に暮らす高齢のご夫婦は、80坪の母屋で生活していた。しかし建物が広すぎて管理が難しく、床も高く、冬は寒い。母屋の改修も検討したが、多額の費用が見込まれた。母屋の隣に30坪の納屋があった。棟札を見ると築150年を超えるが、真壁で構造あらわしのため状況が良くわかり、継手・仕口も概ね健全であった。そこで納屋を住まいとして再生し、母屋を物置とすることを提案した。既存軸組を活かした耐震補強に加え、竹小舞の編み直しや土壁補修など、地域にある材料を活用し、地域に受け継がれてきた大工・左官技術を活用した修繕を行い、地域経済の活性化と地域技能の

継承につながった。また別の解体現場でレスキューした古い柱・梁を活用し、地域内での古材流通にも取り組んだ。住環境の面では、半屋外納戸や外縁を設けることで居住空間を25坪に縮小し、暖房範囲を最小限に抑え、快適性と省エネルギー性の両立を図った。本計画は、高齢期の暮らしに合わせた住み替えであると同時に、納屋という建築ストックの再活用でもあり、廃棄物やCO₂排出量の削減にも寄与している。さらに将来は子世代が母屋へ戻り住むことを想定しており、世代や暮らしの変化に応じて建物の役割を柔軟に変えながら使い継いでいく民家再生のモデルである。

右記に該当する場合は✓(審査基準参照) ☒ a.ストックの有効活用 ☒ b.技能者不足への対応 ☒ c.地域・コミュニティの活性化 ☒ d.既存流通の活性化等

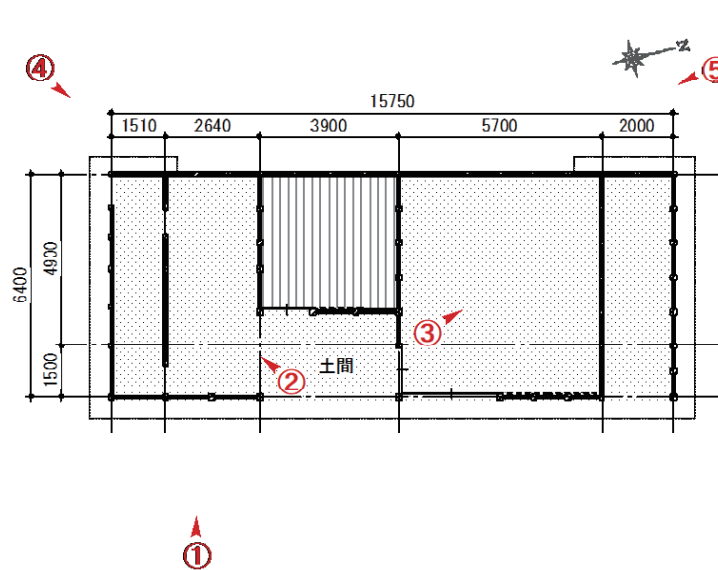
lw値 ls値	リフォーム 前	0.1	リフォーム 後	1.1	UA値	リフォーム 後	1.15	性能向上等、 特に配慮した事項
								・既存軸組を活かした耐震補強 ・大きな開口と地窓による通風 ・バリアフリー ・居住空間はコンパクトに断熱区画 ・土壁外部に断熱材を設け蓄熱性能を活かす

所在地 熊本県八代市 新築竣工年 1870 年 築後年数 156 年 施工期間 200 日間

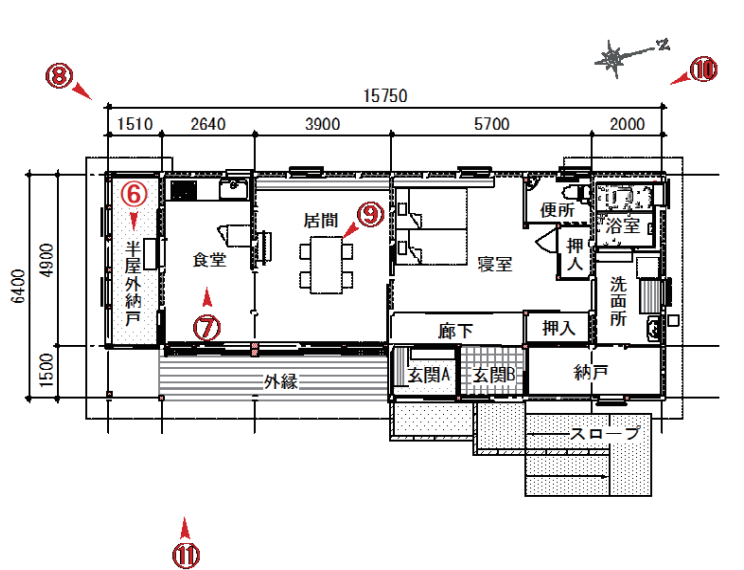
該当工事床面積 88.7 m² / 総工事床面積 88.7 m² 該当部分工事費区分 2,000~3,000万円 / 総工事費区分 2,000~3,000万円

居住者構成 65 歳以上: 2 人 / 40 ~ 64 歳: 人 / 15 ~ 39 歳: 人 / 14 歳以下: 人 / ペット:

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ □クローゼット/ □マンション共用部分/ □その他